

第2回 諫早市総合計画審議会 諫早市まちづくり総合戦略推進会議 資 料

本日の主な論点	1
1. 将来都市像について	2
2. 基本目標について	5
3. 施策体系について	12
4. 将来目標人口について	13

令和7年7月9日（水）

諫早市企画政策課・地方創生室

本日の主な論点

諫早市総合計画 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略 共通となる基本的な方向性についての検討

①将来都市像について

諫早市が目指すまちづくりの将来の姿を分かりやすく表現するキャッチコピー（スローガン）について

②基本目標について

将来都市像を達成するためのまちづくりの目標について

③施策体系について

基本目標を具体化する施策の体系について

④将来人口について

計画の前提となる令和17（2035）年度に目標とする人口規模について

諫早市の新たな将来都市像設定に向けた3つの想い

- ① 諫早市の“強み”と、その強みを活かしたまちづくりの方向性を分かりやすく表現したい。
- ② 市民に諫早市の良さを再認識してもらい、まちに対する愛着や誇りを持ってもらいたい。
- ③ 市民や市外の人に、諫早市が将来に希望が持てるワクワクするまちであることを表現したい。

(将来都市像案)

来てよし、住んでよし、育ててよし！

輝く諫早 夢叶うまち

3つの考え方に基づく将来都市像に込めた想いと関係性

① 諫早市の強み

【データ・エビデンス】

- ・ 市民アンケートにおいて本市の“強み”と重要度が高い分野は、「子育て」、「教育」、「保健・医療」、「地域福祉」
- ・ ワークショップでは地域資源は豊富であるとの意見が多い

【仮説】

子育てや教育、恵まれた自然など優れた生活環境にあり、多様な魅力を有していることが、本市の“強み”を物語っているのではないか。**バランスが良いまちであることを表現すべきではないか。**

【将来都市像（案）】

来てよし、住んでよし、育ててよし！

- ・ ビジネス環境、生活環境、子育て環境、スポーツ、生涯学習など、バランスの取れたまちを表現

+

輝く諫早 夢叶うまち

- ・ 市内外の人々から高く評価され、誇りと魅力が際立って見えるなど

- ・ 結婚、子育て、学び、仕事など、年代を問わず様々な夢や希望がかなえられる など

② 愛着・誇り

【データ・エビデンス】

- ・ 市民アンケートにおいて定住意向や住みやすさは高い割合
- ・ 一方、市外へ向けた発信力の面では課題である。

【仮説】

市民は諫早市の素晴らしさについて認識しており、市と市民が一体となった**積極的なPRへの意識向上が必要**なのではないか。

③ 将来の視点

【データ・エビデンス】

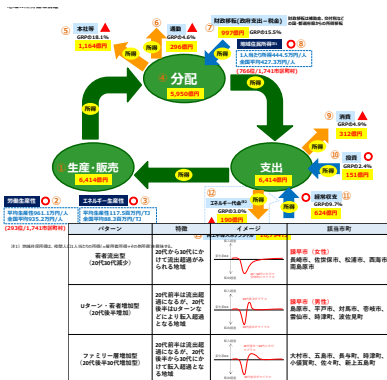
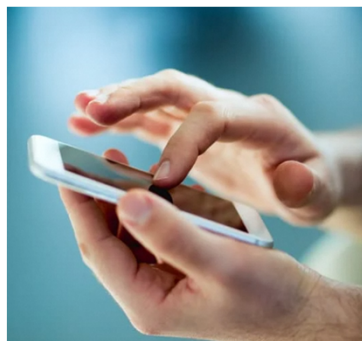
- ・ 若者の流出が進行しており、特に女性のUターン力が弱い。
- ・ 企業誘致や大型商業施設進出など雇用創出が進んでいる。
- ・ 新たな子育て支援策や都市計画が進みつつある。

【仮説】

市民や市外の人にとって、諫早市が未来に向けて希望が持てるまち、夢が叶うまちであることを表現が必要ではないか。

基礎調査結果

今年度開催

社会・経済
データ・トレンドアンケート
(市民・事業者)ワークショップ
(市民・高校生)

本審議会意見



諫早市のまちの良いところ（伸ばすべきところ）・課題（改善すべきところ）は何か？

どのような「まちづくりの基本目標（方向性を示す「柱」）」が必要か？

若者の視点
新しさの視点

産業・雇用の
視点

教育・学びの
視点

誇り・賑わいの
視点

暮らしの基盤
の視点

【基本目標（案）】

〈検討の視点〉

将来
都市像

輝く諫早 夢叶うまち

来てよし、住んでよし、育ててよし！

若者・新しさ
の視点

チャレンジできるまち

若者や女性をはじめ全世代が住み続けたい、今後住んでみたいと思える魅力的で活気のあるまちを創る。

産業・雇用
の視点

産業が活力を生み出すまち

企業誘致と地場産業の振興を両輪で進め、仕事に生きがいを感じることができる雇用を創出する。

教育・学び
の視点

人を育む学びのまち

全ての人が目指す目標に向かって、学びができる環境づくりを推進するまちを創る。

誇り・賑わい
の視点

誇りと賑わいのあるまち

諫早の魅力をみんなで磨き、発信することで、市民は誇りを持ち、活気のあるまちを創る。

暮らしの基盤
の視点

持続可能なまち

誰もが安心して便利に暮らせる機能的なネットワーク型のまちの基盤を創る。

①若者の視点・新しさの視点

【関連データ・意見の要旨】

社会・経済
データ
・トレンド

- ・全国的に人口減少と少子高齢化が加速。東京一極集中は改善されていない。
- ・若者の人口流出が顕著。特に若い女性のUターンが少ない。
- ・人口減の最大要因は自然減の拡大。社会移動をみると、大都市や県内他市への流出も多いことも課題

市民
・事業者
アンケート

- ・市民の10代・20代の約15%が「市外に移り住み、将来戻ってこない」と回答。(10代 15.0%、20代 14.8%)
- ・重要度では「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」が最も高い。(29.7%)

市民
・高校生
ワーク
ショップ

- ・高校生ワークショップでは、若い視点でのまちづくりのアイデアが多数提案。若者向けのイベントやコンテンツ造成、情報発信、若者起業支援などの意見が多い。
- ・起業等やりたいことを諫早で実現できれば、戻ってきたいと思う人も増える。

審議会
意見

- ・若い女性の定着が鍵である。引きつける魅力が必要。
- ・一度市外に出るのは悪いことではない。戻って来たくなるまちづくりが重要。
- ・魅力の発信不足。諫早市の魅力に触れる機会が少ない。
- ・子育て世代向けの屋内遊び場、医療制度の充実などが必要

基本目標（案）

主な施策
分野

チャレンジできるまち

若者や女性をはじめ全世代が住み続けたい、今後住んでみたいと思える魅力的で活気のあるまちを創る。

結婚・子育て・Uターン／多様な交流・連携／起業・創業

②産業・雇用の視点

基本目標（案）

主な施策
分野

社会・経済
データ
・トレンド

- ・ 好調な企業誘致を背景に労働生産性が全国平均を上回るなど、地域の稼ぐ力は強い。
- ・ 一方で農水産業をはじめ地場産業界は中小零細事業者が多く、総生産が減少している分野もある。

市民
・事業者
アンケート

- ・ 事業者アンケートでは、35.2%が雇用増を望むも現実的に難しいと回答。また、約3割が後継者不足および廃業予定。(27.8%)
- ・ 市民アンケートにおいて、「雇用の創出と人材育成」「商業の活性化」が重要度が高く、満足度が低い重要課題分野となっている。

市民
・高校生
ワーク
ショップ

- ・ 大型商業施設への期待が大きい反面、地元商業との共存が必要であるとの意見がある。
- ・ 商店街の活用や農業活性化（耕作放棄地対策など）

審議会
意見

- ・ 雇用や給与面が重要視されており、「働く場所」の確保が最も重要。
- ・ 半導体産業には波があり、将来的なリスクを考慮すべき。単に大手企業を呼ぶだけではなく、地場産業と連携した戦略が必要。

産業が活力を生み出すまち

企業誘致と地場産業の振興を両輪で進め、仕事に生きがいを感じることが出来る雇用を創出する。

農林水産業／商工業／企業誘致／外国人材

③教育・学びの視点

社会・経済
データ
・トレンド

- ・社会トレンドとして、リカレント教育やリスキリングなど“学び直し”が重視されており、生涯を通じた学習の必要性が高まっている。
- ・高校無償化など教育制度の見直しが進められている。

市民
・事業者
アンケート

- ・市民アンケートにおいて、「学校教育」は満足度が高く、重要度も高い本市の“強み”となる分野と意識されている。
- ・教育の質の向上、教育機会・施設の充実、経済的支援、教育の多様化・体験学習、地域連携などの意見が多い。

市民
・高校生
ワーク
ショップ

- ・魅力のある高校が多い。運動、文化とも部活動が盛ん。
- ・著名なプロスポーツ選手を輩出しており交流が求められている。スポーツ施設が充実していることも強みである。
- ・本明川のボートなど新しい取り組みも進んでいる。
- ・まちづくりに対する数多くのアイデアが出され、若者のまちづくりに参加したいという意識が強い。

審議会
意見

- ・政策の根幹を支えるのは「人」。次期計画の10年間に、どのような教育を提供し、どんな課題があるのかを見極めることは、将来の人材育成に直結する。
- ・市内の中高生のスポーツ実績を活かし、スポーツ施設の更なる充実や合宿施設の整備をすることで、交流人口や関係人口の増加につなげていきたい。

基本目標（案）

主な施策
分野

人を育む学びのまち

全ての人が目指す
目標に向かって、
学びができる環境
づくりを推進する
まちを創る。

教育／生涯学習・スポーツ／男女共同・国際交流／市民参加

④誇り・賑わいの視点

社会・経済 データ ・トレンド

- ・本市のR5観光客延べ数は223万人(県内4番目)、観光消費額は99.4億円(県内7番目)。
- ・観光客だけでなくビジネスでの来訪が多いと推察される。
- ・外国人観光客はR5年で約1千人(0.3%)と少ない。
- ・道の駅が開設予定。新たな交流拠点として期待されている。
- ・観光資源は多いが公共交通でのアクセスが弱い。

市民 ・事業者 アンケート

- ・市民アンケートで「住みやすさ」の評価は高く(70.0%)、定住意向も高い(73.6%)一方、観光や移住に対する推奨度はやや低い。(観光20.4%、移住32.7%)

市民 ・高校生 ワーク ショップ

- ・本市には魅力が多数あるが、「その魅力が十分に伝わっていない・磨かれていない」との課題が多く出された。
- ・情報発信やプロモーションが重要であるとの意見が多い。

審議会 意見

- ・本市の魅力が十分に伝わっていないと感じる。魅力を広く発信する取り組みを、検討し進めてほしい。
- ・諫早市のアイデンティティを高めるには、住民一人ひとりの意識が重要

基本目標 (案)

主な施策
分野

誇りと賑わいのあるまち

諫早の魅力をみんな
で磨き、発信する
ことで、市民は
誇りを持ち、活気
のあるまちを創る。

観光・物産／歴史文化／自然環境／地域づくり／シティプロモーション

⑤暮らしの基盤の視点

基本目標（案）

主な施策分野

社会・経済
データ
・トレンド

- ・ 少子高齢化が今後も進行し、本市の2050年の高齢化率は44%まで上昇すると予測されている。
- ・ 本市では機能性が高いまちづくりを目指し、都市計画制度の見直しを進めている。

市民
・ 事業者
アンケート

- ・ 市民アンケートでは「保健・医療」「地域福祉」が満足度と重要度ともに高い本市の”強み“の分野と認識されている。
- ・ 同アンケートでは「交通基盤」が満足度が低く重要度が高い重要課題分野となっている。

市民
・ 高校生
ワークショップ

- ・ 自然環境について評価する意見が多数
- ・ 交通手段が多く他地域へのアクセスが良いなど利便性の高い地域である一方、公共交通機関が少なく車がないと不便であり改善が必要との意見が多い。
- ・ 支所地域も含めた土地の有効活用が期待されている。

審議会
意見

- ・ 戦略的な土地利用が重要。周辺地域では過疎化も進行しており対策が必要
- ・ 交通渋滞対策と公共交通の充実が必要
- ・ 医療体制は県内でも高水準であり看護学校でも定員が確保できている。一方では地域医療の担い手不足も進行

持続可能なまち

誰もが安心して便利に暮らせる機能的なネットワーク型のまちの基盤を創る。

地域福祉・高齢者福祉／医療・健康／都市政策／公共交通／防災・防犯／地域

将来
都市像

輝く諫早 夢叶うまち

来てよし、住んでよし、育ててよし！

【基本目標（案）】

チャレンジできるまち

若者や女性をはじめ全世代が住み続けたい、今後住んでみたいと思える魅力的で活気のあるまちを創る。

産業が活力を生み出すまち

企業誘致と地場産業の振興を両輪で進め、仕事に生きがいを感じることができる雇用を創出する。

人を育む学びのまち

全ての人が目指す目標に向かって、学びができる環境づくりを推進するまちを創る。

誇りと賑わいのあるまち

諫早の魅力をみんなで磨き、発信することで、市民は誇りを持ち、活気のあるまちを創る。

持続可能なまち

誰もが安心して便利に暮らせる機能的なネットワーク型のまちの基盤を創る。

【主な施策分野】

結婚・子育て
UIターン
多様な交流・連携
起業・創業

農林水産業
商工業
企業誘致、外国人材

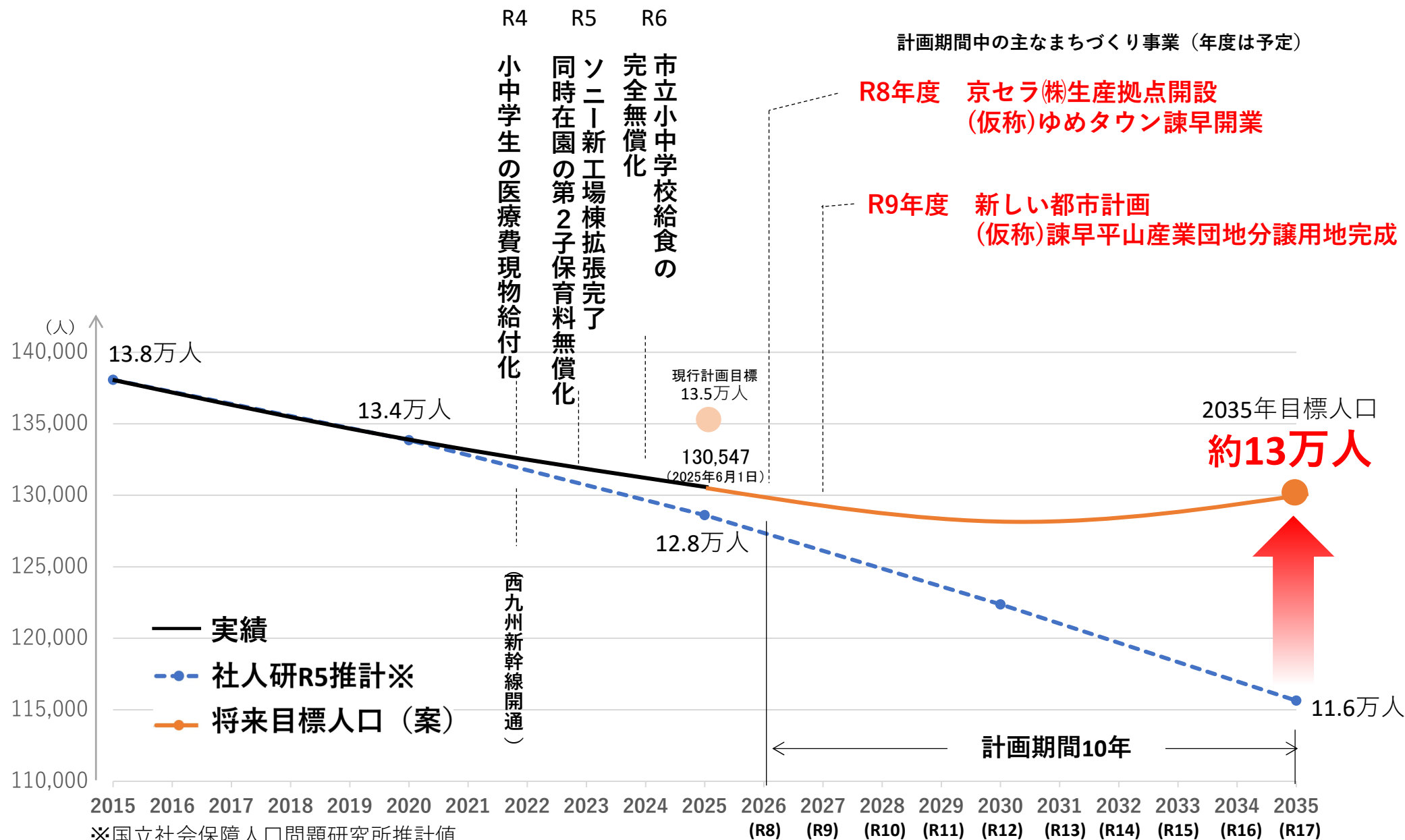
教育
生涯学習・スポーツ
男女共同・国際交流
市民参加

観光・物産／歴史文化
自然環境／地域づくり
シティプロモーション

地域福祉・高齢者福祉
医療・健康／都市政策
公共交通／防災・防犯
地域DX

行政運営・財政運営

様々なプラス要素（追い風）を活かし2035年に人口約13万人を目指します。



将来目標人口（案）の達成に向けた取り組みの方向性

		市 民	市 外	外国人（市内外）
社会動態対策	転出抑制	➤ 若者に求められる仕事づくりや子育て環境などの充実 ➤ 市内企業の紹介とマッチングの機会の創出 ➤ 県内他市町への転出抑制に向けた土地利用・住宅施策など	—	➤ 在住外国人（留学・技能実習等）の定住促進（受入体制の整備）
	転入促進	—	➤ 誘致企業等と連携した市外からの移住・定住促進 ➤ 関係人口（ふるさと住民）の増加による将来の移住促進	➤ 誘致企業・地場企業と連携した外国人人材の受入強化
自然動態対策	出生数増	➤ 結婚支援、子育て環境の充実、医療体制の充実、教育の質向上などによる出生数の増加		
	死亡数減	➤ 介護予防や認知症対策などの充実による健康寿命の延伸		